

# A.C.P.C. All Japan Concert Tour Promoter's Conference

# ZONING

DECEMBER 2003

# VOL. 28

ZONING INFORMATION NEWS

発行元:社団法人全国コンサートツアー事業社協会 発行人:永田友純  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-9-20 TM広尾3F 編集人:鈴置雄三 Editorial&Art Direction:White

禁無断複写転載 © 2003. A.C.P.C.

## topic コンサートは危ない!?

熱気溢れるコンサート会場では、日常を飛び出した若者たちが、まさに「祭」あるいは「ハレ」の世界に身を委ねています。そんなコンサート会場がいつも楽しく愉快な場所であってくれば良いのですが、その楽しみ方によっては想像もつかないような事故が起こってしまいます。

「ダイブ行為」をご存知でしょうか?演奏中にお客様がお客様の頭の上に飛びこみ、まるで泳ぐように頭の上を移動していくのです。どうやら海外から輸入された楽しみ方らしく、高まった感情を身体で表現するとうなるということなのでしょう。



正会員からの事故報告を受け、アンケート調査を実施したところ、応急処置で済む怪我などは頻繁に起こっていることが判明しました。例えば、ダイブする足が頭に当り、柵に顔をぶつけ裂傷した。ダイブしてきた人の歯が頭にささり裂傷した、などなど。すべての人がダイブ行為をするわけではありませんが、ダイブ行為の結果として、ダイブに関与しない被害者が生まれているのが現状です。

プロモーターは、事故が起こった場合には負傷者の応急処置や病院搬送をするなどの措置をとりながら、会場内に危険行為禁止の表示等により、事故防止のお願いを徹底しているとの報告がほとんどの会員からなされました。中には、看護師を待機させているプロモーターもいます。また、会場側ではダイブしたお客様に退場していただくという措置を講じているライブハウスもあるようです。さらに、

危険な行為はダイブだけではありません。水の入ったボトルを投げたり、ステージ前へ押しかけたりと、かなり状況はエスカレートしています。

この件について、ACPCでは重要事項として議論を重ねてきました。

なによりもおお客様の身体にかかわる問題ですから、関係者や、お客様自身にご理解を頂かなくてはと考えています。そこで、ACPCでは事故なくコンサ

ートが行われることを願って、この件に関する「見解」を出そうということになった次第です。正式には、危険行為が予測されるコンサートにおいて、関係者の方々にご相談させていただくこととなりますが、ここでは異例なこととは思いつつも、ご参考までに本会の見解を案文のまま掲載させていただきます。この会報が皆様のお手元に届いた際、すでに正式な見解が伝わっている場合にはお許しください。

### 1 はじめに

全国のコンサートプロモーターは、コンサートの開催に際し、来場されたお客様が安全な環境のもとで、音楽を堪能していただけるよう様々な課題に対処して参りました。現在では、文化施設、ライブハウス等における屋内コンサートのみならず、野外の特設会場におけるコンサートも、お客様のマナー向上が確立されていると感じられます。しかしながら、昨今の一部コンサート会場内における物を投げる行為、ダイブ行為等の危険行為は、お客様の安全に直接かかわる問題として憂慮せざるを得ない状況となっています。本会としては、コンサートの楽しみ方はそれぞれのアーティストとおお客様の関係性の中で構築されるものであることを前提としても、身体に危険を及ぼす行為は絶対に禁止すべきであるという共通認識に至りました。

### 2 お客様への注意の徹底と対処

物を投げる行為、ダイブ行為等の危険行為を防止することを目的として、「危険行為禁止」の表示と開演前告知の措置を取らせていただきます。また、危険行為を発見した場合には、次の処置をとらせていただきます。

- (1) 危険行為を発見した場合には、退場していただきます。
- (2) 危険行為によってケガをされた場合、応急処置はいたしますが、お客様の自己責任とさせていただきます。主催者、会場、出演者は一切責任を負いかねますので、ご注意ください。
- (3) 危険行為が頻発した際には、コンサートを中断あるいは中止する場合があります。

### 3 アーティストへの要請

物を投げる行為、ダイブ行為等の危険行為を防止することを目的として、アーティストからの呼びかけを要請することがあります。万一、アーティスト側にお客様の危険行為をあおる行為があった場合には、コンサートを中断あるいは中止する場合があります。また、これにより損害が生じた場合には、アーティスト側の責任を問わざるを得ません。

### 4 安全なコンサートの確立

私たちコンサートプロモーターは、良質な楽曲とライブ・パフォーマンスをお届けしたいと思っています。安全なコンサートが開催できますよう、是非とも皆様のご協力をお願いいたします。

関係者の方々には趣旨ご理解いただき、コンサートでの事故防止にご協力くださるようお願いいたします。

# in the city TOKYO 2003

J-STANDARD.

Supported by NESCAFÉ.

- ★10月1日～4日.....SPECIAL PROGRAM LIVE  
会場:SHIBUYA AX
- ★10月2日～4日.....WHO'S NEXT LIVE  
会場:SHIBUYA BOXX / CLUB eggsite  
TOWER RECORDS SHIBUYA B1 STAGE ONE
- ★9月29日・30日.....Pre-Events LABEL NIGHTS  
会場:SHIBUYA BOXX / La.mama 他全7会場
- ★9月30日.....Pre-Events KOREA RIGHT NOW!  
会場:TOWER RECORDS SHIBUYA B1 STAGE ONE

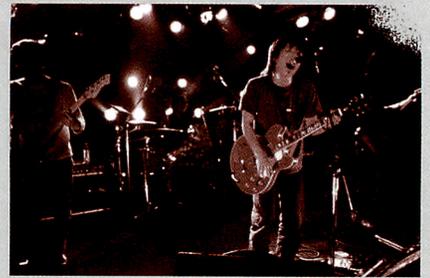


PHOTO:小嶋秀雄

色褪せることのない楽曲の魅力を伝えること、そして未来のスタンダードを生むべく、“J-STANDARD.”をテーマに掲げ、渋谷の街を舞台に開催された「in the city TOKYO 2003」をレポートします。

今年も10月1日～5日（9月29・30日はPre-Events、10月5日には環境シンポジウムが行われた）の5日間に渡り、音楽制作者連盟主催による音楽イベント「in the city TOKYO 2003」がSHIBUYA-AXを中心とした渋谷のライブハウス等で開催されました。

今回はこれまでの“japan”から“TOKYO”とタイトルも新たになり、“J-STANDARD.”というテーマに沿ったライブが連日、各会場で開催されました。まずは4日間に渡りAXで行われたSPECIAL PROGRAM LIVE。佐野元春や小林武史といったプロデューサー、またイベント・タイトルや楽曲そのものの趣旨に賛同して集まったアーティストによるコラボレーション・ライブが実現し、演奏された一曲一曲の素晴らしさを改めて感じさせてくれました。

さらに2日～4日はSHIBUYA BOXX、CLUB eggsite、

TOWER RECORDS SHIBUYA B1 STAGE ONEの3会場では9名のライブ・プロデューサーを迎え、各プロデューサーによるコンセプトのもとジャンルや枠にとらわれず、自選及びエントリー募集の中から選考されたアーティストによる熱のこもったライブが繰り広げられました。

また、9月29・30日には、Pre-EventsとしてLABEL NIGHTS、KOREA RIGHT NOW!といったライブ・イベントが渋谷周辺の各ライブハウスで行われ、各インディーズレーベル所属のアーティストや韓国の注目アーティストが出演し、活気溢れたインディーズ・シーンの勢いや韓国アーティストのクオリティの高いパフォーマンスを感じることができました。

“J-STANDARD.”とは言葉通り「日本のスタンダード」。このテーマのもと、SPECIAL PROGRAM LIVEを中心に統一感のあるイベントだったと感じています。消費社会と言われる現在において、音楽も移り変わりの激しい流行に飲み込まれ、いつか昔のもの忘れられてしまいがちです。しかし、本来、音楽はそういうものなのでしょうか。もちろん、その時代に合った流行はあるとしても、よい音楽は時代を越えて引き継がれていくもの、歌い継がれていくものだと思います。人それぞれスタンダードな音楽はきっとあるはずで、例えばそれは過去のTVドラ



マの主題歌かもしれない。あるいは映画の挿入歌、好きなアーティストのアルバムに入っている一曲かもしれません。しかし、どの楽曲であっても、その人にとっては時間の経過に関係なく、色褪せないスタンダードな楽曲として残っていく。

いくつかのライブ会場に足を運び感じたことは、演奏されたそれぞれの楽曲の素晴らしさ、変わらない価値。そして、ライブそのものが音楽のスタンダードなのではないかということでした。好きなアーティストの演奏や声と同じ空間で体感できるという価値は、きっといつの時代も変わらないものではないでしょうか。もし自分勝手に訳すことが許されるならば、スタンダードとは「普遍性」だと思えます。辞書を引いてもこの訳は出てきませんでしたが、「スタンダードナンバー」という言葉があることを考えると、やはりそれは時代に左右されない普遍性であり、生の演奏や歌声を聴くことができる喜びという意味では、ライブという空間も普遍性のあるものだと感じました。これまでもたくさんのJ-STANDARDは存在し、そしてこれからも新たに生まれてくるはずで、それがより多くのリスナーの心に根付いていくこと、そのためにより良質な音楽環境を提供していくことが大切なのだと感じたin the city TOKYO 2003でした。

## Act Against AIDS



自分自身のHIV（エイズウイルス）感染に気付いていない人が多い国。それが日本です。AAAは10年間、「エイズを自分のこととして一緒に考える活動」を、音楽業界を中心とした多くの方々からのサポートにより展開しています。この活動は小学生から大人にまで浸透してきていますが、残念ながら新規感染が増加傾向にある現在、活動を「継続すること」と「拡大すること」がさらに必要です。究極のテーマは「AAAの活動が必要なくなること」。ぜひAAAの活動にご参加下さい。

お問い合わせ

info@actagainstaids.com AAA運営事務局 03-3447-0419 (平日12:00~17:00)

<http://www.actagainstaids.com>

★開催期間:2003年10月11日～13日

★ライブ

会場:道新ホール/サッポロファクトリーホール/ZEPP SAPPORO 他 全16会場  
46公演・160アーティスト

★ムービーショーケース:10月10日～12日

会場:アーバンホール・マルチスクリーン

★パネルディスカッション『MUSIC VIDEO FUTURE』:10月12日

会場:アーバンホール



MIXは今回で3回目の開催となりました。過去2回の「ライブ」、「見本市」、「セミナー」の3本柱のスタイルから「ライブ」、「音楽映像」という2つのプログラムに変更し、『観る音楽・聴く映像』をテーマに新たな展開を試みました。「ライブ」に関しては、従



来通り単券と3日間有効のPASSを用意し、参加者が好きなスタイルでMIXに参加できるように考慮しました。今回、3日間で160アーティスト、40公演をMIXならではのコンセプトやアーティスト同士のコラボレーションによって開催できたことは、参加者にも単独コ

ンサートとは違った楽しみ方を提案できたと思います。

160アーティストの中には、一般応募の審査を通じた20組のバンドも参加しました。今回、その20組の楽曲を収めたコンピレーションCDを制作し、事前に音楽関係者に配布するなど、アマチュアアーティストのプロモーションにも力を入れました。

「音楽映像」では、地場産業の活性化に繋げるべく、北海道で活躍している映像クリエイターの方々と手を組み、MIXのCM映像、オープニング映像、プロモーションビデオ、ドキュメンタリーなど、新たな試みが出来たことは今後の展開を考える上でも大きかったと思います。

プロモーションビデオでは、一般応募の20組の中から5組のバンドのプロモーションビデオを制作し、会期中「MIX2003ムービーショーケース」と題した映像プログラムを上映する会場で紹介しました。

選考にあたっては映像監督が20組

今年で3回目を迎えた“MIX2003”。北海道から日本全国へ向けて発信される音楽イベントが今回はテーマを新たに開催されました。その様子をMIX2003実行委員会の方に伺いました。

の楽曲を聴き、プロモーションビデオを撮ってみたいバンド5組を選び、監督からアーティストに声を掛け、短い期間ではありましたが、良い作品が出来ました。アーティストにとっては、客観的に自分たちをとらえる良い機会となり、監督にとっては音楽という素材を通し新たな可能性が発見できたと思います。

MIXを開催する意義を考えた時、北海道でやる必然性ということは前回、前々回と課題となっていました。日本全国でさまざまな音楽イベントが開催されておりますが、それとの違いをどう明確に打ち出せるか…また、「複合型音楽イベント」として開催してきたMIXが、実際に地場産業をはじめ現在の音楽業界にどのような影響を与えているのか…など、過去3回開催してきましたが、改めて考え直す必要があると思います。今までの経験、反省を活かしつつ「MIXとは?」、「MIXでなければ出来ないこと」を考え直し、時代や環境の変化に対応しつつ、MIXも変化していければと思います。



ご求人・アルバイトの情報を  
お気軽にお寄せ下さい。

<http://www.tohogakuen.ac.jp/~recruit/>

学校 東放学園  
法人 東放学園

東放学園キャリアサポートセンター

〒150-0071 東京都渋谷区本町3-9-3 ☎0120-375-099 FAX: 0120-375-033  
E-Mail: [syusyoku@tohogakuen.ac.jp](mailto:syusyoku@tohogakuen.ac.jp)





# 文化庁舞台芸術国際フェスティバル International Performing Arts Festival

POP ASIA 2003

## ポップアジア2003

会場=大阪厚生年金会館 大ホール

チケット=全席指定 3,500円(税込) / 通し券 6,000円(税込)

**チケット絶賛発売中!!**

CNプレイガイド 06-6776-1199 チケットぴあ 0570-02-9999  
ローソンチケット 0570-00-0403 イープラス <http://eee.eplus.co.jp>  
POP ASIA 2003 web site <http://www.popasia2003.jp>

### Groove of Asia

2003年12月25日(木)

18:00開場 18:30開演

出演  
ブラック・ボトム・プラス・バンド (日本)  
ラブホリック (韓国)  
クレイジーケンバンド (日本)  
OPENING DANCE CELEBRATION  
バグズ・アンダー・グルーヴ (日本)

25日 クレイジーケンバンド



26日 CHARA



### Voices of Asia

2003年12月26日(金)

18:00開場 18:30開演

出演  
ユー・チュアン (中国)  
ニコラス・ツェー (中国・香港)  
CHARA (日本)  
OPENING DANCE CELEBRATION  
バグズ・アンダー・グルーヴ (日本)



主催:文化庁舞台芸術国際フェスティバル実行委員会 企画:(財)音楽産業・文化振興財団 協力:朝日放送 後援:経済産業省、朝日新聞社、fm osaka、(社)日本音楽著作権協会、(社)日本芸能実演家団体協議会、(社)日本レコード協会、(社)日本音楽事業者協会、(社)音楽出版社協会、(社)音楽制作者連盟、(社)全国コンサートツアー事業者協会 運営:(株)キョードー大阪 制作:(株)プロマックス

主催 文化庁舞台芸術国際フェスティバル実行委員会

関西事務局 06-4396-1500 東京事務局 03-5549-2829

関西から



POWER OF CULTURE  
関西元氣文化圏共創事業

# コンサート事業における法的環境の整備に関する 調査研究委員会開催報告

———コンサート六法の編纂に向けて

平成15年度の補助事業である「コンサート六法の編纂と活用」を目指した第1回委員会が、10月16日に開催されました。この委員会は来年の2月まで4回開催される予定ですが、その結果は報告書としてまとめられ会員の方々に配布する予定です。

現在、コンサート事業の周辺には、ダフ屋、ネットオークションの問題、携帯電話での撮影・録音の問題、チケットのキャンセル、あるいは公演会場での事故や盗難の問題など、様々な問題が存在しています。そして、正会員にあっては、日々こうした問題と向かい合い、各社なりの措置を講じ、処理をされていると思います。

そのような状況を受け、本会では平成7年に「コンサート約款」を、さらに平成11年には「コンサート事業者のための消費者対応マニュアル」を策定してきました。これらは、その当時の問題処理に対しての基本的な考え方として提示したのですが、すでに現在とは状況の違いもあり、改定の必要性、あるいはもっと社会に普及させ、効果の向上を図るべきであるという意見も増えてきました。

また、平成14年12月に国民生活審議会消費者政策部会より公表された「消費者に信頼される事業者になるために—自主行動基準の指針」では、

業界が消費者に向き合う基準の必要性を論じています。この場合の主たる背景は企業不祥事の多発です。幸い、コンサート業界において企業の不祥事は起こってはいませんが、消費者保護に関する法律が整備されていく傾向にある今、消費者との関係、あるいは事業者間の関係性において、「わかりやすい商慣習」を説明していける力をつける必要があるのではないのでしょうか。そのため、今回の「コンサート六法」では、コンサート事業に関連する法律・条例等をまとめることから始めたいと思っています。

注意すべきは商慣習が事業者の都合によるもので、消費者に不利なものであると世間から判断される場合です。大きな問題（事故）が起こる前にその背後にある法律・条例等について学び、整合性をとっておくべきであると思います。事業者は約款の下敷きとして、社会のルールである法律があることを理解し、系統立てた説明ができなくてはなりません。消費者とのトラブル等で—

番苦労されているのは現場の方々でしょう。だからこそ、その方々に消費者への説明資料として役立つものを作りたい。そうした思いが「コンサート六法」を立ち上げる最も大きな要因でした。

とはいえ、社会自体、生活自体が変化し続け、技術の進展は速く、法的解釈も立ち止まらない時代にあって、この一冊ですべてが解決することは至難の技でしょう。それでも、コンサート事業を進めていく上での課題を身近なものからひとつひとつ解決していく姿勢だけは持ち続けながら、かつ幾度となく改定を繰り返しながら、法律や慣習と矛盾しない、そして現場で活用されるような「コンサート六法」を作り上げていきたいと考えています。



委員会名：コンサート事業における法的環境の整備に関する調査研究  
～ コンサート六法の編纂と活用 ～

- 委員：委員長 疋田 聡 東洋大学経営学部教授  
委員 辻居 幸一 弁護士  
委員 反畑 誠一 音楽評論家  
委員 石川 寛良 相模原市市民文化財団事務局長  
委員 桑原 宏司 サンデーフォークプロモーション代表取締役  
委員 蓮沼 健 ディスクガレージ取締役  
委員 永田 友純 ホットスタッフプロモーション代表取締役

調査協力：株式会社文化科学研究所

事業補助：全国中小企業団体中央会



かけがえのないひとときを、ともに分かちあう。  
その音楽を生み出した作詞家、作曲家への感謝の気持ちも、  
どうぞ忘れないでください。



いつまでも  
大切に  
したいもの。

COLLUMN

# MUSIC JOURNEY Vol.3

永田友純 (A.C.P.C. 会長)



バーニングマンとの出会いは、西麻布のバーで開かれた写真展で、ヴィンセント・ホアンというバーニングマンの写真集を出したカメラマンと話をする機会があって、そこで盛り上がり、友達を集めて行こうとなったのがきっかけです。

今回で2回目の参加だったんですが、今年は8月28日からこのイベントに参加してきました。まず26日にサンフランシスコに入ってレンタカーを借り、2日間でキャンプ用品・食材を買って、その後に借りたモーターハウスに積み込み、7~8時間かけて会場へ向かいます。会場は東京都と同じくらいの広さの砂漠なんですけど、日本人が思い浮かべるエジプトとかサハラ砂漠といった足をつけば埋まるような砂漠ではなくて、乾燥しきって固く、ひび割れが入っているような砂漠です。その中心にバーニングマンというシンボルが立てられ、ストリートやアベニューといった地図があり、さらに時計型に配置されることによって居場所がわからなくなっているんです。

砂漠なので何も無いところなんですけど、センターカフェというところでコーヒーやティーといったものは置いてありました。バーニングマンの精神は本来、物々交換が基本なので物を買ってはいけないというルールがあるんですが、センターカフェは事務局が唯一物を買っているところですね。総参加人数は、去年が2万人で今年は3万人と言われてます。場所があまりにも広大過ぎて、日本人の参加者にはあまり会えなかったんですが、今回は20~30人ぐらいはいたようです。

イベントの趣旨は、スピリチュアルなものと思われがちなんですが、主催者であるラリー・ハービーが若い時に大失恋をして、彼女と暮らしていた時のものを燃やしてしまうとい

うことで、友達同士で彼の家の庭に集まったのが始まりだそうです。その趣旨は今も継が

れていて、参加者が各自燃やしたいものを持って行きます。クライマックスではバーニングマンを中心に楕円形にグルッと回ってパレードするんですが、バーニングマンが燃え終わって倒れた瞬間、みんながそれに向かって走っていき、そして燃やしたいものを火に投げる。

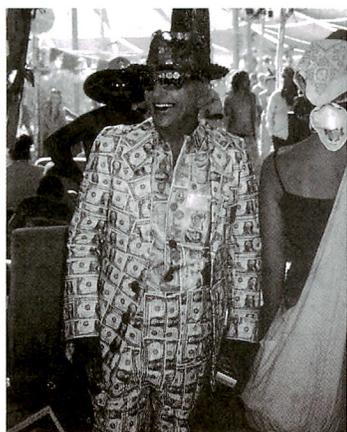
翌日には、精巧に手作りされた木製のアジア風テンプルがあるんですけど、そこには自分の親族だったり大切な人の霊がいるというシチュエーションで、その人の名前をそこに書いて、最後に燃やします。

初めて行った人は第一声に「この世のものじゃない」と言いますよ。もの凄くインパクトがありますし、参加者は異次元の体験をしに

Photo: Vincent Huang



来ているんですね。決して日常ではないんです。例えばミニFMもあって、ファッションショーの情報やイベントの紹介もしているんですが、行ってみるとステージ上では変わった格好をしている参加者が出演している。ヌーディストもいればナポレオンみたいな格好している人、バイキングもいれば待みたい人もいます。あるいは本物の1ドル紙幣で作ったスーツを着ていたり。初めて参加した時は、ただただ驚きました。また、場所によっても全然雰囲気の違いです。自転車で40~50分かかるところに参加者が作ったバーがあるんですが、そこは売買ではないので、友達になると飲み物を振舞ってくれる。参加者がそれぞれ真剣



に自腹を切っているんです。日本人にはなかなかできない参加型のパフォーマンスイベントですね。特にアメリカ人は自分たちがエンターテイナーという意識が強いから成り立つと思うんですけど、バーにしても材料を持ち込んで作るという、そういう意味では大変なイベントなんです。それぞれのモーターハウスの前では、音楽のジャンルがそれぞれ違った、自分たちの好きな音楽ばかりをかけているクラブがたくさんあったりして楽

しかったです。すごく凝ったものを10日間のためだけに作っている。それは商売ではなく、自分が遊ぶためにかなりの費用をかけて参加してくるわけで、そこまで真剣に遊んでいることがすごい。より充実してその場を快適に過ごすということを最重要に考えて、苦労を惜みずやっている。快楽に対して貪欲ですよ。

最近では音楽のイベントもたくさんありますが、遊び方が多様化している今、楽しみは音楽だけに限ったことではなくなっています。エンタテインメントという意味では、他の音楽ジャンルがライバルではなく、映画だったりレストランで食事をしたり、観光もその1つだろうし、音楽の中だけのことではなくなっていることをこのイベントに参加して強く感じました。

砂漠でコーヒーというのもいいですけど、大根おろしにしらすを入れて味噌汁と納豆、ぬかを持って行って、自分で漬けたぬか漬けを食べる。そういう和食のフルコースで砂漠の朝を迎えるのもなかなか贅沢なエンタテインメントでした。

## BURNING MAN

(バーニングマン)

毎年夏の終わり頃にアメリカ・ネバダ州北部で開催される砂漠の真ん中でのアートフェスティバル。このフェスティバルの中心を示す座標であり、シンボルでもある15メートルを越す木製の人形をバーニングマンと呼ぶ。これをフェスティバルのオープニングで起立させ、1週間後の最終日に行われるファイヤーセレモニーで、場の浄化の意味も込めて燃やされる。広大な大地の上に創られる作品群、その中で表現する様々なアーティスト。何も無い砂漠に突然湧き出したエネルギーに吸い寄せられるようにして、この1週間に及ぶ夏のイベントに、現在では2万人以上の人々が参加している。

開催地名:ネバダ州北部ブラックロック砂漠  
ブラヤ平原

FROM A.C.P.C.



## フラワーシップ 「花の通信配達」のご案内

専用の発注書にご希望のお花、ご予算(¥3,000~)などをお書きの上、ACPC事務局へFAXして頂くだけで、全国どこへでもお客さまのお気持ちをお届けできるサービスです。

ACPCへのご注文により、ご希望されたご予算に送料込みの料金と消費税でご請求させていただきます。ギフトの種類は花束やアレンジメント、鉢物、開店祝いのスタンド花、冠婚葬祭用に至るまで、あらゆる用途にお応え致します(専用カタログからご用途に合わせてお選びいただけます)。お花に添えるメッセージも24文字までお付けすることができます。是非、こちらのサービスをご利用くださいますよう、お待ちしております。

お問合せはA.C.P.C.事務局まで。

TEL:03-3445-8720

FAX:03-3445-8721



## 第11回還付金報告

合計金額:¥10,768,045

対象公演:平成15年4月~6月開催公演  
(平成15年3月~5月申請公演)

参加会員数:35社(正会員)



## 新規正会員報告(3社)

会社名:(株)ハヤインターナショナルプロモーション  
代表者:林 博通(代表取締役)  
住所:〒150-0001

東京都渋谷区神宮前3-31-17  
TEL:03-5412-7500 FAX:03-5412-7600

会社名:(株)スーパーキャスト  
代表者:神林 一夫(代表取締役)  
住所:〒381-8508  
長野県長野市北長池1951-15(長野オフィス)  
TEL:026-263-1110 FAX:026-263-0444

会社名:(株)クリエイティブマンプロダクション  
代表者:清水 直樹(代表取締役)  
住所:〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷2-1-13日本風土ビル3F  
TEL:03-5466-2444 FAX:03-5466-6464

# コンサート保険 備えて安心!

A.C.P.C. 正会員・賛助会員の皆さまへ、保険による事故発生費用の平準化をおすすめします。

●興行中止保険 ●賠償責任保険  
●観客ケガ見舞金保険 ●アーティスト・スタッフケガ保険  
その他、保険の事なら何でも御相談下さい。

Insurance Professionals  
UNITY

ユニティー

〒171-0022

東京都豊島区南池袋2-30-12  
富士火災池袋ビル8階

TEL.03.5928.1381

担当:吉澤・松本

